ログイン前の続きから読む

東京・調布の道路陥没、要因は施工ミス　年度内に防止策

会員記事

山本孝興、平山亜理、一條優太 2021年2月12日 21時47分

シェア　ツイート list　ブックマーク 0　スクラップ　メール　印刷

有識者委員会後にNEXCO東日本が開いた会見。陥没原因について説明した=2021年2月12日午後4時26分、練馬区、平山亜理撮影

東京都 調布市 の東京外郭環状道路（外環道）の地下トンネル工事のルート上で、道路の陥没や空洞が見つかった問題で、東日本高速道路（NEXCO東日本）の有識者委員会（小泉淳委員長）は12日、シールド工法を用いた工事の施工ミスが主な要因だったとする調査結果をまとめ、公表した。国土交通省 によると、2001年に施行された「大深度地下使用法」に基づく工事での事故は初めてという。

報告書によると、現場の地下では、トンネルを掘るシールドマシンと呼ばれる大型機械が地盤の土の硬さで動かなくなるトラブルが発生。マシンを動かすために土を軟らかくする薬剤を注入した結果、土を取り込み過ぎる施工ミスが発生するなどして機械とトンネル上部の地盤に隙間ができ、地盤が緩んだと指摘した。

振動、吐き気、川からポコポコと泡　道路陥没直前の異変

さらに、現場は流動化しやすい砂の層や礫（れき）がある上、人工的に造成された場所で、「固い岩盤で表面が覆われていなかった」とし、こうした「特殊な条件」が重なったことで陥没や空洞が発生したと結論づけた。今年度内に再発防止策をまとめ、工事の再開時期を決めるという。

赤羽一嘉 国交相は12日の閣議後の会見で、調布市 と同じ大深度地下で計画されている リニア中央新幹線 について「工事主体の JR東海 は、調布市 の陥没の原因などを調べる有識者委員会の見識を踏まえ、工事をすると認識している」としており、同じ工法を用いたリニア工事のスケジュールに影響が出る可能性もある。

ここから続き

NEXCO東は事故を受け、周辺でボーリング調査を実施。ほかに空洞は見つからなかったが、地盤が緩んでいる箇所がある可能性もあるとして、周辺の補修を実施する。また、周辺住民への補償では、工事による家屋損傷のほか、風評などで賃貸物件の家賃収入が減った場合の減収相当額、不動産の売却損が出た場合の実損部分などについても検討する方

針を示した。

　芝浦工業大の稲積真哉教授（地盤工学）は、「大深度地下使用法は通常使用されない40メートル以深の使用権などについて定めたもので、土木技術とは別の観点の話。 土木工学 上は、『地下40メートル以下だから安全』とは全く言えない」と指摘。「同法は事業者が適切に施行するという性善説に立っている。事業者が対策を怠らないような見直しが必要ではないか」と話す。（山本孝興、 平山亜理 、一條優太）